・追加・変更箇所は赤文字で表記。改訂日付は最新のみを記載。
・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/09/10
改訂 2024/11/05

【これぞマドロスの恋】 変更と注意事項

＜曲を通じて＞

演奏方針：

・指揮は 2 つ振り

曲想：

・B1B2 が和音を作っていく構成なので、臨時記号が多く出現するのがちょっと大変。

・長い曲なので覚えるのは大変。

＜全体事項＞

・「いかりはくわせぬおれのむね」は原譜通りとする。「いかりは(wa)くわせぬおれのむね」

・日本語の曲だが、会話ではないので、縦を意識して。例えば、16 小節の「く」のロングトーン。
日本語は口先だけでも歌えるがそれでは響きがでない。特に大げさに（唇、顎、顔全体を）大きく動かして発音することが必要。

・難しい小節に来た時、正確に歌おうと注意していると、テンポが落ちてくる。

・難しい小節をクリアした後など、安心して油断すると口が横に広がる（52 小節から DS で戻ったときなど）。そうならないためには、無意識に縦を習慣づける。

・臨時記号がついた音符は、その記号を強調する感じをだすとうまくはまる。♯ならちょっと高目、♭ならちょっと低め　など。

・5,9,13 小節など　ブレスのタイミングが早すぎて直前の音がブツ切れになっている。
例：　はてしな_く ひろが_る おとこ_の ゆめ　/　こいびとに_も しばしわか_れ　（_{小さい字}が聞こえない）
★本番のインテンポだともっと聞こえなくなる
ギリギリまで音を伸ばして、お腹をボンッと膨らます感じで素早くブレスする練習も。
ブレスは、胸や肩を力ませて息を吸い込もうとするのではなく、息を吐き切った反動でびっくりしたときに息をのむ感じを再現。お腹（前方だけでなく、脇腹や背中の肋骨の下も）全体を「ボン」と膨らませる感じにすれば、横隔膜が下がり肺が広がり、自然に空気を取り込める。

・22～24 小節　ドイツ語は、「アウフ　ヴィー　ダー　ゼーン」（また会いましょう：さようなら）

・24-25 小節　B1　#F♮F#F の半音の下げ上げは、音程を曖昧にせず 1 音 1 音キチンととらえる。

・28-32 小節のような難しい和音が一瞬で通り過ぎる箇所は少しのズレでバラバラになってしまう。

全パート　こうした難しいハモは、全員が一体感をもち、お互いをこだわって聴きあって寄り添うことで奏でられる。（勢いでは無理だし、各パートが平均律を正確に奏でたとしても成立しない。）

ハモの中で、自パートがどこの音を出しているのかを感じられると楽しいし音も正確になってくる。

・B2　縦を意識。特に低い音は縦にすれば響きが出る。

・T1　メロディラインの音程が T2 より低くなる箇所（例 8-9 小節）もしっかりとメロディを響かせて。

・T2　マドロ「スのこい」は全部同じ音「B」。悩むと下がってくる傾向がある。

・B1　臨時記号なしの半音の音程はしっかりと。（例　6 小節「F」→「G」）

＜個別事項＞※55 小節以降（転調後）も同じことに気を付ける。

・8 小節　T2　T1 のメロディより上、思い切って音を高目に

B1 音程の上下の振り幅をしっかりとらえて

・22,75 小節　全パート「は」と「auf」は繋げずに言い直す（日本語→独語の切り替え）。

・24 小節　T2　「she'n」の音は「C」から一発で「A」にきちんと降りる。「B」を経由する癖がある。

ここは鬼門。77 小節も同じ。

B2　「seh'n」の「エ」が横になりがち。縦に縦に。

B1　#F♮F#F の半音の下げ上げは、音程を曖昧にせず 1 音 1 音キチンととらえる。

・25 小節～　B1　音程と言葉がぼやけている。もっとエッジを効かせて。

・28-32 小節

全パート　31 小節 3 音目(2 拍目の頭)の「る」がブレスで消えてしまわないように。

できれば、「はてしなく～ゆめ」までノーブレスが理想。　★84 小節も同様。

T1　30～32 小節　各小節内で音が下がるパターンに注意。「B メロが終わる」感をだしている。

T2　音が浅く音程も曖昧。1 音 1 音の音程をキチンととらえ縦に。

29 小節　4 拍目は「#G」（上の「B」に行かない）。

30 小節　3 拍の♮G　発音にも注意（コゥに近いク、要は縦）。

30-31 小節の「ひろがる」「FEEEE」の E はしっかりと下がり切ること。

B1　おいしい音。ちょっと気取って出す感じ。30 小節 3 拍の♭E はしっかりと下がり切ること。

一音一音はっきりと主張する感じで縦に歌う。

B2　28 小節迷わず一発で「F」にきちんと降りるように。「♯F」にならない。

30～31 小節　半音での進行を際立たせるには、正確な音程と縦で音を響かせること。

31 小節　♯C が低い。

・33-40 小節　全パート　パートソロ（掛け合い）はテンポ・音量の勢いが落ちないように。

出だしが遅れないようオンビート（若干食い気味？）で。

人数が減るので音量を出さないとしぼんでしまう。

歌いだしの 1 音目の音量をしっかり出す。（低い音は同音量だと聞こえにくい）。

「おれのしごと」 → 俺が仕事するんだ！という勢いを出すこと。

・37 小節～　T1 37 小節の 4 分音符の入りが遅く、38 小節 2 拍目裏の 8 分音符が長い。

・41 小節　T2 「♯C」は難しい音だが、歌う前からその音を意識して狙えば一発で決められる。ちょっと低いのでもっと上に突き抜ける感じを出して。

そこが取れて安心すると 42 小節の特に最初の「れ（A）」が曖昧になる。低いと次の音がずれる。

・41 小節　B1 は、B2 の終わりの音のオクターブ上の音。

・43 小節　全パート同じ音「G」なので、揃わないとおかしい。

・44～51 小節　全パート　ここは全般的に音が低いので、ともすればくぐもって聞こえてしまう。

こうしたつなぎのセクションは特にしっかりと歌うこと。しっかりと出せばきれいに響く和音になる。

B1　聞こえてきにくい。モゴモゴせず縦に響かせれば、埋もれることもないしきちんとハモれる。

T2 「♯G」もう少し高目に。

・49～50 小節　T2 49 小節 4 拍目と 50 小節の 1 拍目（「A」「A」）は、前の「G」[F]と違う。

音の違いをきちんと意識。

・50 小節～　全パート 「こもりうたに」は「これぞ～」につなぐ意識で、マルカートかつクレッシェンドとする。

・50 小節　B1 「にこ」は同じ音「E」。下がらないように。

・51 小節　T2 「も」は「A」にきちんと戻るように。

・54 小節　全パート　1 拍目は短いが、正確な音を出さないと転調後の音程が安定しない。

また、転調の意思を表現するために「え」の発音をしっかりと出す。

T1　1 音目は前と同じ「G」。ここから、次の出だし「♭E」の移行が難しい。

T2　音は取れている。「♭B」が次の転調の和音につながる大事な音。

B1　転調後の出だしの音「♭E」なので間違うと、全パートが路頭に迷う、責任重大。

B2 「♭D」の音(7th)。

・85 小節～　全パート　拍数分をなんとなく伸ばすのではなく、終わりに向け盛り上げる伸ばし方で。

・87 小節　全パート　休符は正確にパシッと無音にする。

B2 「♮E」は半音の上げを正確に（ちょっと低くなってきた）。

・89 小節～ B2 長音で音が上ずっている。また、91 小節の「F」が下がり切ってない。

ここは　T2「♭C」のきれいな響きをよく聞いて合わせるように。